



## 白熱・刑事事実認定

### 冤罪防止のハンドブック

門野博 著／青林書院 定価3,600円＋税（2017年9月刊）

全力をつくした刑事弁護の判決の日、裁判長から発せられる「主文、被告人」に続く声に集中するときの緊張感。そして結局、弁護活動が実らなかったときの徒労感。

真剣に無罪を争い、破れたことのある弁護士なら、誰も一度は味わったことのある感覚であろう。

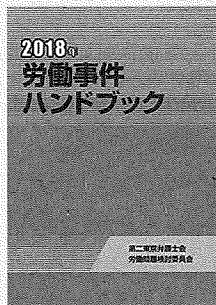
なぜ弁護人の無罪主張は裁判所に受け入れられなかったのか？そのことを知るためにはまず、裁判所における“自由心証”のブラックボックスをこじあげ、判決に示された事実認定の内在的論理に肉薄する必要がある。

本書の著者は40年間にわたり裁判官を務めた元刑事裁判官であり、現職時には事実認定に関する論文も発表している。もっとも本書は、論説集や判例解説といった「堅い」読みものではなく、副題にあるとおり「冤罪防止のためのハンドブック」として執筆したという。そのため、まず二人の弁護士によ

る最近の著名判例の「検討」という形で事実認定の問題点を平易に解説し、さらに深く理解したい読者には、「研究ノート」や「補講」部分を薦めるといように、初学者でも手に取りやすいような構成上の工夫が施されている。

しかし、その内容は高度である。本書は、冒頭の「有罪認定の基準」をはじめ、情況証拠の扱いや「経験則と事実認定」など、鋭い対立をはらんだ問題を対象としている。「冤罪防止のためのハンドブック」という当初の狙いをはるかに超え、あるべき刑事事実認定とは何かという難解な問題にまで分け入っている。日々刑事弁護に携わる弁護士にとっては、批判的視点も含め、注目すべき著作である。

東京弁護士会会員 泉澤 章 Izumisawa, Akira



## 2018年労働事件ハンドブック

第二東京弁護士会労働問題検討委員会 編著／労働開発研究会 定価3,500円＋税（2018年3月刊）

本書は、労働事件の実務に携わる者に必携の書である。昨今の労働事件は、多様性・専門性が高まり、新規の論点が生起している。本書は、最先端の法律・裁判例・学説

を網羅的、そしてコンパクトにまとめたアップデートな実務書である。

本書の前身は、「新・労働事件法律相談ガイドブック」(2012年)である。その後、2015年の改訂時に「労働事件ハンドブック」と改名された。さらに新しいテーマ（公務員関係、\*国際的労働関係、企業再編と労働契約の承継など）を追加して全面改訂されたのが本書である。

本書の最大の特徴は、徹底的に実務に寄り添っていることである。そして、第二東京弁護士会労働問題検討委員会に所属する労使双方の弁護士が立場の違いを超えて日ごろ議論を重ね、研鑽した成果が余すところなく結実している。

どのページを開いても、実務において道しるべとなる裁判例が豊富に紹介されている。実務上悩みがちな論点についても、的確に考えるヒントを与えてくれる。解説には無駄がなく、執筆陣の豊富な経験と知見が反映されている。また、裁判実務だけでなく、相談者対応にも配慮しており、残業代計算の仕方、雇用保険関係など初心者がつまずきがちな論点についても丁寧な解説がなされている。全般にわたり、労使双方の視点が公平に盛り込まれている点も貴重である。

労使紛争予防・より良い紛争解決の実現には、労使双方の立場を熟知しての対処が求められる。本書は、そのための貴重なノウハウを教えてくれる。この「ハンドブック」は、労働事件に携わる実務家の必読の書である。皆さんが常に座右の書とされることをお薦めする。

東京弁護士会会員 徳住 堅治 Tokuzumi, Kenji

LIBERTY & JUSTICE  
JAPAN FEDERATION OF BAR ASSOCIATIONS

# 自由と正義

2019年 1 月号

vol. 70 No.1

- 年頭所感 司法を社会に発信して行動する  
日弁連を目指して……菊地 裕太郎
- ひと筆 我が家のGreat Journey  
—アメリカ大陸横断ドライブ in 1994……出井 直樹

特集 **人訴・家事事件の国際裁判管轄が  
法制化されました**

人事訴訟及び家事事件の国際裁判管轄 総論・離婚……池田 綾子  
実親子関係・養親子関係・親権・後見(未成年後見を含む)の  
国際裁判管轄……平田 厚  
不在者・扶養・相続に関する審判事件の国際裁判管轄、家事調停事件の国  
際裁判管轄、人事訴訟を本案とする保全命令事件の国際裁判管轄、及び  
外国裁判の承認・執行等について……武田 昌則

- 寄稿 カナダの法律専門職における  
マネー・ローンダリング規制の枠組み……ジェームス・C・バッコ